Ｆ委員会　ライフスキル講座（定時制）

（１）今年度事業報告

定時制では総合的な学習の時間を利用してライフスキル講座を計画した。今年度は前期Ⅱ部、後期にⅢ部、各回４時間扱い４日間の実施である。

①Ⅱ部ライフスキル講座（１，２，３年次の希望者対象：２４名）

内　容　　１．自己理解・他者理解

２．コミュニケーションスキル

３．ストレスマネジメント

以下に生徒の主な感想をあげる。

第１回：５月１６日（火）

・同じクラスの人となかなか話す機会がなかったけど、今回の講座で少しきっかけができたと思う。自分からオープンになって話していくことが大切だと思った。自分から積極的に話しかけたりはできなかったが、次回以降で少しでも多くの知識を学び身につけられればと思います。

・普段話さない他の学年の子と話したりする機会があって嬉しかった。自分について話すことはよくあるが、改めていろんな質問に答えると自分の知らなかった一面が見えてきたので嬉しかった。自分はコミュニケーション能力があまり高くない方だと思うので、この総合の時間で自分の能力を向上させていきたい。

第２回：６月１３日（火）

・内容のほとんどに他者との交流があり、最後まで楽しく学べました。はたから見ればただ遊んでいるようでも、他人と関わるのが面倒だと思い込んでいる私にとってはとても必要なものだったと思います。自分の性格の長所と短所を知ることもできたので、これからは長所にあった豊かなひらめきを活かしていけたらいいなと思いました。

・今回は前回よりもコミュニケーションがよくとれました。じゃんけんゲームでは積極的に話しかけ、スムーズにすることができました。ビンゴでは女子だけでは解答できないところもあって戸惑っていたのですが、友だちから話しかけてくれてよかったです。最後まで埋まらないところは友だちの友だちに協力してもらいました。これがコミュニケーションの力なのかなと感じました。

第３回：７月７日（金）

・あまり自分はストレスがなかったり、あっても自分ひとりで解決できてしまうような軽いものしか感じたことがないので、甘く見ていた部分がどこかある気がします。これからはストレスを溜めず、時には人に相談をしたりと、適切に

対応していきたいと思います。

・間違った思い込みはまさに自分の思い込みをずばり当てられたようでドキリとしました。思い込みをしないように直していきたいです。グループでストレス解消をまとめた時は、人のストレス解消を見て、こんな方法もあるんだと驚きました。自分自身ストレスをためやすい方なので、ストレスとうまくつきあっていけるようになりたいと思いました。

第４回：８月２９日（火）

・アサーティブに表現するのは難しいと感じました。私は普段どちらかというとディフェンシブに生きている方で、相手のことを気づかいながらも、自分の意見をはっきり言うというのを考えるだけでも難しかったです。それと、ストレス自己診断で自分の人格が弱すぎると思ったので、世の中を生き抜けるようにたくましい人格になれるように考えて行動してみようと思いました。

・アサーティブな表現というのは初めて聞いた。でも、自分はけっこうできている方だと思う。相手に対しても自分に対しても嫌な気持ちにならないような自己表現はかなり大切だと思うので、これからも大事にしていきたい。ライフスキル講座全般を通して、自分のことをより知れたし、他の人のことも知れたので、とてもよい時間になったと思う。これからの人生に役立てていけるようにがんばりたい。

②Ⅲ部１年次におけるライフスキル講座（全員対象・８名）

内容　１．自己理解・他者理解

２．コミュニケーションスキル

３．ストレスマネジメント

次に生徒の主な感想をあげる。

第１回：１０月３日（火）

・今回のライフスキル講座では、「自分のことを知る」ということで講座を受けました。自分の足りないところや自分のいいところなど、分かっていそうで分からなかったことが少しあったので、今回そのことに気づけてよかったと思います。これからももっと自分のことを知ることができるようにがんばりたいです。

第２回：１０月３０日（月）

・今回のライフスキル講座では、性格のタイプやこころの仕組みなどを知ることができたのでよかったです。あとは間違い探しやじゃんけんやトランプなどをやりました。トランプでは、最初はいやだったけど、だんだん楽しくゲームをすることができたのでよかったと思います。

第３回：１１月７日（火）

・今回のライフスキル講座では、ストレスについて学びました。ストレスの要因と言っても数え切れないほどあって、ストレスをゼロにすることは難しいことが分かりました。だから大事なのはストレスを最小限に抑えて、ストレスと上手につきあうことだと思いました。

第４回：１１月１７日（金）

・今回のライフスキル講座を受けて、ストレス解消法やアサーティブの診断などどれもすごくいいなと思いました。診断を受けて私はアサーティブにできていないという結果が出たので、これからはアサーティブになれるように心がけようと思いました。ためになりました。すごいよかったです。

（２）成果と課題

１．年度当初の計画通り、総合的な学習の時間を活用して２つの部で実施することができた。受講した生徒に対して、意識づけの面で効果があった。

２．講座内容について再検討する必要がある。他の講座でやっていることを参考にしながら、受講している生徒の実態に合わせて、取り入れられるものは取り入れていくことが必要である。最終的には、講座のモデル化に向けて研究を進め、多くの教員が指導できるようにしたい。

Ｆ委員会　ライフスキル講座（通信制）

通信制では、総合的な学習の時間に「ライフスキル講座」を選択者に毎年実施している。

（１）目的

学校生活や日常生活の中で、いろいろな人とのかかわりや出来事に対して、うまく対応できる能力や態度を養う。また、自分の感情とうまく付き合い、人とのコミュニケーションを円滑にできる「コツ」を講師の方や本校職員とともに学び合いながら、時にはワークショップ形式なども取り入れたグループ活動等を通じて、ライフスキルの向上を目指す。

（２）講座内容　面接指導日７日間の時間割の中に全１１時間を組み込み実施した。

回	日　時	担当者	内　　容
1	６月４日（日） ５校時	本校職員	オリエンテーション（年間計画・受講の仕方）　自己紹介（出会いの演出）
2	６月７日（水） ６～７校時	外部講師（発達支援研究センター職員）	職業レディネステスト～自分自身を発見しよう　職業適性検査の実施
3	６月２１日（水） ６～７校時	外部講師（発達支援研究センター職員）	職業適性検査のフィードバック及び自己分析
4	９月２７日（水） ６～７校時	外部講師（発達支援研究センター職員・ハローワーク職員）	職業適性検査のフィードバックと就労支援機関の利用の仕方
5	１０月４日（水） ６～７校時	外部講師（発達支援研究センター職員・ブライダルプランナー社長）	基礎的なマナー講座 電話の受け答えの講習会
6	１０月１５日（日） ７校時	本校職員	コミュニケーションスキルアップ「文章リレー」「困った時に相談するスキル」
7	１１月２６日（日） ６校時	本校職員	単位修得に向けて 総合的な学習の時間のレポート指導

（３）考察

本校の担当者は保健課２名、希望のつばさ委員２名である。その他外部講師として発達支援研究センター職員・ハローワーク職員・ＴＡカンパニー代表取締役に協力を依頼している。今年度の受講者は男子９名、女子３１名の計４０名（H28:48 名、H27:38 名）であった。総合学習の単位修得のためには１０時間以上の活動が必要だが、満たない場合は、校内のＳＳＴ講座や外部の支援機関で活動しても時数を認定している。１８名の生徒が１０時間以上参加した。将来の就労も視野に入れた講座は、通信制の生徒全員に受講させたい内容であり、受講したどの生徒にとっても評価の高いものであったことが生徒の感想から窺える。

Ｆ委員会　発達障害支援・外部機関との連携

（１）今年度事業報告

①作業の学習

特別支援教育支援員の多大な協力をいただき、手帳を取得している就職を希望する発達障害をもつ生徒（２名）に対して、働く意識を高め、仕事に必要なコミュニケーションを身につける時間（週１回、２時間連続）を設定した。

まず、支援員がホワイトボードに作業（各教室の掃除、箸折作成、ペットボトルの分別作業など）の流れを示し、前回の作業タイムやミスの数などを振り返り、今回の活動で意識してほしいことを伝えた。作業の中では、「作業が終わりました。点検をお願いします」というような報告の仕方や「分からないので教えてください」というようなＳＯＳの出し方を繰り返し指導した。加えて、それぞれの生徒の課題である身だしなみや言い訳をしないことなども個別に指導した。

作業終了後は、目標に対する自己評価を行い、作業の振り返りを行った。最後に担任・支援員の先生からアドバイスをもらい、働くということがどのようなことかについて、成功や失敗体験を振り返りながら一緒に考えた。

②就業体験・サポートブック

夏休みを利用して就業体験を行った。とある飲食店の方のご好意で３日間実施した。作業の学習で身につけた報告の仕方を活かしながら働いていたようだ。就業体験の後で、店の方から働きぶりを評価していただいた。ハローワークに提出する職業評価をもとにしたもので、働く上で大切な１４項目に対して４段階で評価していただいた。

就業体験終了後、同じ項目に対して自己評価をさせた。その結果、店側の評価と自己評価には大きな差があり、さらに努力しなければならないことを感じていたようだ。それに基づいて「どうすれば評価が上がるか」「自分の努力でどこまでできるか」「周囲からどのようにサポートしてもらいたいか」をサポートブックにまとめ、ハローワークとのケース会議、ふれあい合同面接会、作業の時間にいつでも振り返ることができるようにした。

（２）成果と課題

１．担当者間での連携を密にし、実践的な内容の学習を設定することで、対象生徒の就労意識を高めることができた。

２．今後同様の生徒に対する指導を求められたときに、特定の教員ではなく多くの教員が指導できるように、今回実施した内容のマニュアル化及び共通理解が必要である。さらに、実際に指導するに当たっては、校内及び校外の関係機関との連携を密にして取り組むことが不可欠である。

Ｆ委員会　生涯学習講座

（１）今年度事業報告

◆ＰＣスキルアップ（前期）

期　間　平成２９年５月１２日（金）～８月４日（金）　全１１回

時　間　初級　１３：００～１４：４０

　　中級　１７：３０～１９：１０

受講者　初級　１２名（うち本校生５名）

　　中級　１１名（うち本校生３名）

◆芸術に親しむ～篠笛の楽しみ

期　間　平成２９年６月１６日（木）～８月３１日（木）　全１１回

時　間　１３：００～１４：４０

受講者　１０名（うち本校生５名）

◆ＰＣスキルアップ（後期）

期　間　平成２９年１０月２７日（金）～平成３０年１月２６日（金）　全１０回

時　間　中級　１３：００～１４：４０

受講者　中級　１０名（一般受講者のみ）

◆実践！３Ｄプリンタ

期　間　平成２９年１０月２７日（金）～１２月８日（金）　全５回

時　間　１７：３０～１９：１５

受講者　１４名（うち本校生１名）

◆ロボット工学の世界

期　間　平成２９年１２月１５日（金）～平成３０年１月２７日（金）　全５回

時　間　１７：３０～１９：１５

受講者　１９名（一般受講者のみ）

◆やまがたふるさと探訪～山形県埋蔵文化財センター見学・整理作業体験～

期　間　平成２９年１１月３０日（木）　全１回

時　間　１３：１５～１５：３０

受講者　　１名（一般受講者のみ）

（２）成果と課題

○今年度も昨年度と同様、７講座を開講した。後期ＰＣ講座を１講座とし、「３Ｄプリンタ」と「ロボット工学」を金曜夕方の開講とした。

○受講者数は全体として漸減傾向にあるものの、前期芸術講座が、前年度修了者からの紹介により多くの留学生が受講し、例年とは趣向を変えた内容で実施することができた。

○生徒受講者は通信制生徒のみ、のべ１４人であった。受講している生徒数こそ多くはないものの、本校生が一般受講者の方と共に学ぶことで、生徒と一般受講者の双方で、互いに刺激になっていることが受講生アンケート等から窺える。本校で生涯学習講座を開講しているねらいの一端は達成できていると判断される。

○今年度は特に「３Ｄプリンタ」講座の広報に力を入れた。本校をはじめ県内の多くの高校・中学校に「山形メイカーズネットワーク（ＹＭＮ）」製の３Ｄプリンタが導入されていることから、このプリンタの活用を促進する一助となれば、との考えがあってのことである。その結果、山形東高の生徒や山形三中の先生が受講して下さった。３Ｄプリンタのスキルは就職にも有利に働くこともあり、キャリア教育の１つのツールとしても活用の可能性があり、今後の展開を模索していきたい。

Ⅴ　取り組みの成果と課題

１　研究テーマ

「外部機関の教育力を活用した学校と生徒の社会力向上」

２　連携・協働を支援、コーディネイトする配置人材の有効性の検証

（１）ソーシャルワーカーの有効活用モデルケースづくり

研究当初はソーシャルワーカー（ＳＳＷ的人材）としていたが、本校では主に進路指導色が強く、先進校視察で伺った福祉的な内容ではない点から「進路アドバイザー」として３年間嘱託した。内容は生徒の継続的な個別相談を主とし、キャリアカウンセラーと共同したソーシャルスキルトレーニング講座の企画・運営を行った。

ライフスキルアップ講座は、平成２２年度文部科学省委託「高等学校における発達障害のある生徒への支援事業」により開始し現在まで「総合的な学習の時間」で保健課を中心に、１年次を対象としたコミュニケーションスキルを実施している。それに対してソーシャルスキルトレーニング講座は卒業年次を中心に考えており、進路決定・社会で必要なスキルを学ぶ講座として企画、運営に携わっていただいた。

（２）専門キャリアカウンセラー配置による外部機関との密着

キャリア教育システム構築支援・助言、生徒・教職員の個別相談、ソーシャルスキルトレーニング講座の企画・運営をしていただいた。本事業と関連して様々な進路行事、「進路ガイダンス」「就職セミナー」「キャリアカウンセリング」なども担当していただき、進路意識の喚起、育成を図った。生徒に対する講座はもちろんのこと、教職員の研修講座などで教職員の進路指導力の向上に努めた。就職では県内企業の訪問、新規開拓・情報収集、進学では大学・専門学校等の情報収集などを行い、情報提供を行った。

また、年２回程度の連携校（県内定時制４校・通信制１校）への派遣では、ソーシャルスキルアップ講座・キャリアカウンセリング・職員研修会・進路講演会など多岐にわたる要望に応え、本事業の波及に努めた。

（３）効果測定

３年間、卒業年次生を中心とした相談活動・ソーシャルスキルトレーニング講座についてのアンケートを実施しており、詳細はⅣ事業報告に掲載している。卒業生は毎年入れ替わるため年度を追った変化を測定することは難しいが、どの年度もこの３年間、この研究事業に関わった生徒はみなその有効性を感じているようであった。

3　多様な学習歴を持つ生徒への対応

（１）学び直し等含め多様な学習指導の在り方研究

①義務教育段階の学力保証（学び直しの研究）

本校に入学する生徒には不登校経験者が多く、義務教育段階の学力が備わっていない生徒も多い。本研究では空き時間を活用した学習の追指導として「霞城塾」という構想があった。しかし、定時制は併修（他部の授業を履修する）で授業を組んでいる生徒も多く、共通で設定できる空き時間は思いの外なく、放課後という時間もない。定時制の授業ではユニバーサルデザインなどを取り入れながら、状況に応じて中学校の学習内容を振りかえる「学び直し」を取り入れるようにしている。特にⅢ部（夜間）では「学び直し」について以前から「たいよう」という自主教材をつくり、ロングホームルームを活用し継続した基礎学力の学習を行うなどの対策を講じている。

Ⅳ部（通信制）でも、以前から基礎学力向上対策の一環として「基礎力アップ学習」を行ってきた。「明日への国語」「明日への数学」「明日への英語」の科目を履修登録している中学校までの学習内容が身についていない生徒を対象とした講座である。そこで、この講座を本事業に絡め「霞城塾」とした。継続的に学習し修了証を手にした生徒からはその有効性が感想としてあがっている。

②進学希望者の学力向上、個別指導による能力の伸長

多様な学習歴という点では、大学進学を目指す生徒への対策という側面もある。定時制では進学校から転入学・編入学する生徒の中には基礎学力がある生徒もおり、教科に個別学習の担当の割りふりを依頼し、継続した学習指導を行っている。通信制では独自に進学塾に通っている生徒も多く、登校時に教科の指導を受けることもある。定時制は近年、進学希望者が減少傾向にあるが、大学進学希望者はまじめに個別指導の学習に励んでいる。ただ元々精神的に不安定な生徒も多く、卒業を前に心身共に体調を崩し、学習に臨むことが難しくなってしまうという状況もある。担任団や保健課・スクールカウンセラーなどと連携することが重要である。

③探究型学習の授業づくり

定時制では教務課を中心に「探究型学習」をテーマとして研究授業を行っている。昨年度の山形県教育センターの山科先生、山形大学の三浦先生の講演をベースに、今年度は山形県立庄内総合高校の五十嵐先生に実践的な授業研究についてお話を伺った。教員の共通認識や生徒が授業に臨む際の継続的声かけなど、今後の授業のヒントをいただいた。とかく手法に目が行きがちなアクティブラーニングであるが、「グループ学習」をすればアクティブラーニングではない、生徒が主体的に頭を回転することが大切ということを再認識した。本校はコミュニケーション・表現を苦手とする生徒が多

く、探究型学習の授業を苦痛に感じる生徒も多い。それでも社会で生き抜くための力を養うために、本校の実情にあわせた探究型学習の研究を更に進めていく必要がある。

（２）多様な生徒の進路指導支援

①これまでの発達障害を持つ生徒の就労支援

平成２２年度文部科学省委託「特別支援教育推進事業」における『最終報告書』の個別の就労支援について、「学校の対応だけでは自ずと限界があり、外部の就労支援機関との連携が不可欠である。卒業後も視野にいれると、在学中にそれらの機関とつながっておくことが特に重要である。」とあり、就労に繋げることが難しい状況であった。

本校定時制では中学校までは特別支援学級で学習した生徒も、他生徒と同じように通常授業に出ることになっており、入学時より特別支援教育支援員の支援を受けながら授業を受けている。これまでの就労を希望する生徒は、高校入学後に療育手帳等を取得しハローワーク主催の「ふれあい合同面接会」に参加するなどの活動を行ってきたが内定には至らず、卒業後に職業訓練機関につないで卒業するケースが多かった。

②今年度の発達障害を持つ生徒の就労支援

今年度卒業予定者の中には、入学前に療育手帳Ｂ・精神保健福祉手帳３級を取得している生徒２名がおり、ともに就職を希望していた。前年度、進路課を通して山形公共職業安定所の専門援助部門につなぎ、保護者と本人が直接相談を行った。今年度は山形障害者職業センターでの作業能力検査等を行い、生徒の居住地に基づくそれぞれのハローワークを紹介していただいた。ハローワークの面談では、本人・保護者に加え、担任が複数回同席する必要があったが、保護者の理解・連携は慎重に行わなければならないため、所属部や進路課での代行が難しく担任の負担が大きかった。

その動きと並行して、校内では保健課を中心に特別支援教育支援員による「就業意識、就業に必要な作業能力、コミュニケーションスキルの時間」を週に１回２時間程度継続して行う取り組みを行った。また、他の特別支援学校などでは就業を経験しているが本校はその機会がないため、夏期休業中に就業体験やサポートブックを活用した指導などを行った。また、「ふれあい合同面接会」の参加や企業見学・就職試験等については、事前に個別担当教員や進路サポート室でも支援を行った。字の書き方や返答の仕方などを丁寧に指導していただいた。このように様々な支援を受けた成果で内定を得ることができたと考えている。

③発達障害を持つ生徒の就労支援の課題

特別支援学校等では、上記のような就業に必要なスキルを学ぶ時間が設定されており、段階的に就業体験もできる。企業としても就業体験などを通して、特別支援学校

等と生徒の個別の情報を共有しており採用の門戸は広い。本校定時制は普通科なので授業にそういうカリキュラムはなく、できることは個別の支援を組む程度である。本校入学を選択した発達障害の診断を受けている生徒の保護者の話を聞くと２パターンあるようだ。一つには、上記のように卒業後の就労を考えると特別支援学校等が有利なので入学させたかったが、ＩＱの基準で入学できなかったというもの。もう一つは、周囲の目やこれからの本人の人生も含めて考え、普通の高校で学習をさせて就職をさせたいというものだ。今年度当初は生徒の保護者が、発達障害を持つ生徒の保護者のネットワークで普通校から就職をした話を聞いたと一つの企業に固執してしまったり、自宅から近い勤務地・職種にこだわったりで、２人ともなかなかマッチングがうまくいかなかった。個性も障害の程度も、その年度の求人も違うので、知り合いの情報を鵜呑みにするのは危険である。保護者の思いが強いために本人が戸惑い、進路サポート室に相談に来ることもあった。高校卒業時の就労についての正しい情報をもとに、中学卒業時の進路選択は丁寧に進めてほしいと思う。

そして、就労については本人・保護者ともに「障害についての受容」が必要不可欠である。手帳取得もその理解なくしては不可能である。本人の将来、就労をと考えるならば、まず障害を受け容れて行動することである。本校は診断を受けていない発達障害のグレーゾーンといわれる生徒は多い。「障害についての受容」がなければ、保護者の了解なく進めることもできないので、個別の支援も組めず、自分から要望もしないまま、就労を前に壁にぶつかってしまう。今年度の２人はそれが早期に成されていたから、様々な支援をすることができたと考えている。保護者の理解・協力を得ることは一朝一夕にできることではなく、担任の負担は計り知れない。スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーなど、専門の知識を持つ方に入ってもらうなど、今後も検討が必要である。